

森林整備Ⅳ

海上の森大学実習林整備計画

日時：平成26年12月20日（土） 10:00～15:00

講師：田中 隆文（あいち海上の森大学コーディネーター）

概況



森林整備事業見学

講師 海上の森の会 大澤秀文氏、平野幸治氏

里山サテライトの南側に位置する1.7ha人工林にて整備の様子を見学した。1.7ha人工林はNPO法人海上の森の会によって間伐整備された地域で、異なる特徴を持つ7ゾーンに分けられる。

- ・通常間伐...1・2・3・4・5ゾーン
- ・巻き枯ら間伐...6ゾーンb
- ・皆伐による植生観察...5・6ゾーンa
- ・景勝を重視した間伐...7ゾーン

現在、5ゾーンの南側を間伐してゾーン拡大が図られている。

本講義では1～5、7ゾーンと間伐中ゾーンを見学した。1～5ゾーンは間伐後の期間が順に短くなっており、下草の育ち具合を見比べた。

グループディスカッション

講師 名古屋大学大学院生命農学研究科 田中隆文 准教授

10年後の海上の森の活用について3グループに分かれディスカッション後発表した。その後、田中准教授によるまとめが行われた。

グループ1“人が集まる海上の森”

- ・整備...自然保護やハイキングコースを設定するための整備
- ・お金を生む...間伐材利用、自然宿泊施設(子供向け)などで利益を出すことを目指し、里山保全やボランティア支援に利用する
- ・サポーター...ちょっとしたボランティア『ちよいボラ』を実施し、森へ関わる機会を増やす

田中准教授の意見

宿泊施設は幅広い年代が活用できるようにしてはどうでしょうか？

グループ2“サステナブルグループ”

- ・幼児体験フィールドの拡充...幼児体験フィールドを拡充し、子供たちにより興味を持ってもらう場を提供する
- ・気軽に参加...里山サテライトに人を常駐させ(受付)、間伐体験などすぐ参加できるようにする
- ・農地利用...苗づくり体験

田中准教授の意見

子供たちが海上の森での活動を通し、里山や森林に興味を持つきっかけになればよい。

グループ3“本物の里山をつくる”

- ・本物の里山をつくる...ボランティアで自然のままの里山をつくる。ボランティアには里山に住んで管理をしてもらう。ボランティアの支援のため、里山見学には入場料をとる
- ・交通整備...里山に住む人や来場者向けに交通を整備する

田中准教授の意見

入場料を地域や企業と連携し、年間パスポートにしてはどうでしょうか？

田中准教授のまとめ “のにあう森林”

山には森林・里山だけでなく草地の要素もある。“野に合う森林”として森林と里山に合う草地(調和)を考え活用していくことも大切である。